

“ちいさな企業” 成長本部（和歌山県和歌山市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成25年9月9日（月） 15：30～17：30
- ・ 場所：和歌山県和歌山市（ホテルアバローム紀の国）
- ・ 「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主なご意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- 地方は働き口が少なく、若者が県外に出てしまっている。後継者を確保するため、魅力ある、活気あるまちづくりをする必要がある。
- 工業製品や衣料品などは、生産国が表記されているが、漆器は表記されていないことが多い。日本製はブランド価値があるので、海外製品と区別すべきだし、そのように国で規制してほしい。
- 補助金申請には、入念な計画をたてて沢山のコストをかけている。不採択だったときのフォローもしてほしい。
- 売上が伸びれば税金を納めることになるが、成長途中では、その利益は次の投資に使いたい。さらに成長できた時に、税金として還元したい。利益を次の投資に繋げられるような、何らかの対策があると嬉しい。
- ゼロから会社を立ち上げたが、融資を受けたり建物をひとつ借りるにしても、女性は風当たりが強い。女性に特化した経営相談制度があればよい。
- 介護業界の離職率が高い原因のひとつに、給料が安いことが考えられる。24時間365日人の命を支え、心に寄り添う介護を行う従業員には、しっかり手取りを出してあげたい。先行きが見えるような施策がほしい。
- 子育てしながらでも働きやすい環境を目指し、託児所付きの事務所を作ろうとしたが、県から「対象となる従業員がまだいないのに、作ることはできない」と言われてしまった。そこで、子供を連れてきながら働ける体制を自前で作り、

小さな子供がいる母親を優先的に雇った。

- 地方の商工会は存在の危機に瀕している。小さな町を助けたかったら、商工会をちゃんと守ってほしい。地域の防災なども商工会が担っており、地域の核となっている。
- 若者の県外流出に歯止めをかけたい。若者に和歌山をもっと知ってもらいたい。
- 補助金申請の、書類を簡素化してほしい。手軽に使えるようになれば、新しいチャレンジにも意欲が湧く。

<支援機関等>

- 金融円滑化法が終了し、中小企業の大半は苦しんでいる。経営改善の支援に力を入れているので、国にも引き続き支援をお願いしたい。
- 若者が起業するのは様々障害がある。「行動計画」により、ひとりでも起業家が増えてくれるとよいと思う。
- 企業を左右するのは経営者。経営者のリーダーとしての質の向上も、「行動計画」に入れたらよいと思う。
- 支援機関の行動計画に「支援のスキルを上げる」とあるが、これは必ず実行すべきもの。
- 中小企業、支援機関、県、市町村が一体となって、オール和歌山として、地域が元気になるように頑張っていきたい。



以上